

人権資料・展示全国ネットワークニュース

第 24 回 (2019 年度) 総会開催

2019年11月21日(木)、22日(金)の2日間、鳥取県鳥取市で第24回人権ネット総会を開催しました。

1日目は、白兔会館で総会を開催しました。高橋雅和代表(福山市人権平和資料館館長)のあいさつから始まり、羽場恭一さん(鳥取市副市長)と西村一秋さん(部落解放同盟鳥取市協議会議長)に来賓あいさつをいただきました。

そして、事務局から2018年度の事業・決算の報告、2019年度の事業・予算の提案を行い、承認されました。次回総会については、福岡県(2020年11月頃開催予定)で行うことを提案し、承認されました。

2日目は、人形芝居伝承館で円通寺人形芝居保存会のみなさんによる実演を鑑賞し、人形芝居の歴史や特徴などについてのお話をうかがいました。



高橋 雅和 代表

2018年度事業報告

- (1) 「人権資料・展示全国ネットワーク」ニュース第54・55号の発行
- (2) 「人権資料・展示全国ネットワーク」ホームページの運営・更新
(担当：柳原銀行記念資料館)
- (3) 第1回事務局会議(於：福山市人権平和資料館) 2019年7月12日
第2回事務局会議(於：鳥取市人権情報センター) 2019年10月18日
- (4) 文化庁支援事業「平成30年度地域の核となる美術館・歴史博物館支援事業」
 - 「人権ネットを活用した地域活性化事業実行委員会」(事務局：水平社博物館)
 - ・ 外国人利用者に向けた国際情報発信事業
 - ※ 翻訳のみ採択。印刷費等は不採択
 - ・ 人権ふるさとマップ多言語化
(中国語〈簡体字・繁体字〉・韓国語・フランス語・スペイン語)
 - ・ ホームページ多言語化(中国語〈繁体字〉・フランス語・スペイン語)
 - ・ リーフレット多言語化(中国語〈繁体字〉・フランス語・スペイン語)
 - ・ ガイドマニュアルの多言語化(英語・中国語〈簡体字〉・韓国語)

○人権尊重に向けた国際交流事業

- ・アジア地域を中心としたMOW（「世界の記憶」）資料の共有化（韓国国史編纂委員会・高麗大学校）
- ・F I H R M（アルゼンチン）での国際発信

（5）「人権資料・展示全国ネットワーク」リーフレット新規作成

2019年度事業計画

- （1）「人権資料・展示全国ネットワーク」ニュースの発行
- （2）ホームページの運営・更新（担当：柳原銀行記念資料館）
- （3）「人権資料・展示全国ネットワーク」のデータ保存について
- （4）文化庁支援事業「令和元年度地域の核となる美術館・歴史博物館支援事業」による「人権ネットを活用した地域活性化事業実行委員会」への参加

加盟館からの報告

（1）大阪人権博物館

「リバティおおさか裁判の報告と
支援のお願い」



（2）水俣病センター相思社

「水俣病歴史考証館30周年記念
改修プロジェクトの報告」



（3）ホロコースト記念館

「開館25年を迎えるホロコースト
記念館での平和教育について」



2019年度 人権資料・展示全国ネットワーク代表・事務局体制

代表：福山市人権平和資料館館長 高橋 雅和

事務局：広島県 福山市人権平和資料館 ホロコースト記念館

鳥取県 鳥取市人権情報センター

徳島県 徳島県立博物館 徳島県立人権教育啓発推進センター

奈良県 奈良県立同和問題関係史料センター

福岡県 福岡県人権研究所 福岡県人権啓発情報センター

久留米市人権啓発センター 田川地区人権センター

記念講演①

「鳥取藩の部落史」

講師：坂本敬司さん（鳥取県部落史研究会会長）

鳥取藩には東部、西部ともに被差別部落が存在した。芸能の面では、東部では門付け芸としての春駒が人形芝居に発展してそれが被差別部落以外にも広がった。西部では芸能として獅子舞があったが、被差別身分の芸能として考えられたため、東部のように多くの村で行われるようにはならなかったと考えられる。もともと国



が違っていた藩の東部と西部では、大きな違いがある。鳥取藩の特徴の一つとして、部落寺院が藩内に2カ寺しかなかったこと、その原因として葬儀の権利をめぐる争論があったことなどについて学びました。

記念講演②

「被差別体験の聞き取り調査から見てきたもの」

講師：坂根政代さん（部落解放同盟鳥取県連合会書記長）

「被差別体験の聞き取り調査」は表に出てくることのないたくさんの差別事象があることをもっと知ってもらうために行った調査である。調査のためには、聞き取りの前提となる人間関係の構築の大切さを痛感し、なかなか差別事象が出てこない中で、「嫌だなと感じたことはないか」などと話すといろいろと出てきた。そして、「それは差別だな」と一人ひとりが気づいていく過程について学びました。



現地研修の概要（会場：人形芝居伝承館）

円通寺人形芝居は、円通寺念力（がんりき）節に合わせて人形を舞わず郷土色豊かな芸能です。1984（昭和59）年2月21日に鳥取県無形民俗文化財に指定され、さらに1985（昭和60）年12月20日付で文化庁より記録作成等の措置を講ずべき無形の民俗文化財（国選無形民俗文化財）に指定されました。

人形芝居保存会会長の西村一重さんの挨拶の後、人形芝居保存会のみなさんに、「三吉デコ」、「大黒舞」などの演目を披露していただきました。最後に、人形芝居保存会の磯部一章さんから、円通寺人形芝居の特徴や歴史、受け継いでいくための活動として、地元小学校に「でこクラブ」があることなどのお話をうかがいました。



西村 一重 さん



三吉デコ（三番叟）

右手に木偶（木で作った）馬頭を、左手には手綱がわりに駒の首に結んだ赤い布を持って、賑やかな囃子に合わせて予祝の舞をする美しい舞姫人形です。

大黒舞

お祝物として演出する大黒舞は、円通寺独特の引出物で、淡路や文楽等の系統を歩む操人形の型を取るものでは見ることのできない特色である。大黒舞は、正月などに庶民階級の間で行われていた招福行事の名残で、当時の農村に行われた縁起を担ぐ生活様式の伝統を今に伝えたものです。

唄の中にも「大黒さんがすきとりて、お戎さんが鍬とりて、七福神さんがもみまかれますとはさて目出度いな大黒舞」と豊年を祈願する目出度い歌が出てきます。

